

第 58 回試験 合格体験記 Y.A 20 代女性 学生

私は大学 1 年生のときに気象予報士試験の勉強を始め、大学 4 年生の夏の試験で合格しました。大学の授業、習い事、アルバイトとの両立は簡単なことではありませんでした。山あり谷ありの約 3 年半を紹介します。

=====

【受験歴】

	一般	専門	実技
第 52 回	否	否	—
第 53 回	否	否	—
第 54 回	否	合	—
第 55 回	合	免除	否
第 56 回	免除	免除	否
第 57 回	免除	合	否
第 58 回	合	免除	合

=====

【各回の感想(覚えている範囲で...)】

<第 52 回～第 53 回>

この時期は大学 1 年生で授業も課題も定期テストもたくさんあり、放課後に通っていた気象予報士の予備校の授業がメインの勉強でした。もう少し自宅で予習・復習する時間を取ればよかったと後悔しています...

<第 54 回>

大学 2 年生のときに世間はコロナ禍に入り授業は全てオンラインになりました。大学に行けないことは非常に残念でした。ですが、この期間を有効活用して自宅でも本格的に勉強に打ち込み始めました。第 54 回では実技の勉強はせず、2 学科突破を目指していましたが、専門は合格できたものの、一般は 1 点足りず不合格でした。

<第 55 回>

第 55 回は絶対に学科一般を突破することを目標に猛勉強しました。ひたすら過去問を解き、解説できるようになるくらい勉強しました。また、少しずつ実技の勉強を始め、予備校でいただいたレジュメを参考にしながら天気図を読む練習や天気図記号を覚え始めました。初めて実技の試験を受けましたが、最初に紙をビリビリ切り離す音にはびっくりしまし

た...(笑)ちなみに私は整理ができないので問題用紙だけ切り離す派です！(笑)

<第56回>

予備校の実技中上級コースを受講し始めました。

2 学科免除で実技の勉強に集中できる絶好のチャンスでした。第 40 回～第 55 回の過去問を印刷し、最初は全て解説を読みながら解きました。試験までに 3 周ほど解き、解説を見ず 80 点くらいは取れるようになりました。(理解したというより、解答を覚えていました...) この調子で試験に臨めばもしかしたら合格できるかもしれない！と思っていたのですが、試験で初見の問題を解くと、何を問うているのかさっぱりわかりませんでしたね...

<第57回>

この時期に中島先生の個別指導に通い始めました。

専門が復活してしまったので、1 年ぶりに勉強し始めました。専門は暗記の量が多いため覚えているか不安でしたが、一度合格しているため思い出すのには案外時間はかかりませんでした。ですが専門は絶対に落としたくないので専門メインで勉強しました。実技は過去問の解答は大体覚えていたので、中島先生に第 40 回～第 56 回の過去問の細かい解説をしていただきました。試験直前には過去問の理解はほとんどでき、90 点以上取れるようになりました。

ですが...実技 1 の新傾向の問題に圧倒され不合格...応用を利かせる力が足りませんでした... 今まで以上に猛勉強していたので試験の帰り道も帰宅した後もかなり絶望していましたね...(笑)

<第58回>

中島先生の模擬試験を定期的に受け始めました。

7 度目の正直。中島先生と第 57 回試験の反省をし、「勉強すれば絶対取れる暗記物は確実に取らないといけないね。」というアドバイスを信じて、暗記物を完璧にする勉強法にしました。雲量、雲形、天気図記号、予報用語などを唱えたり書いたりしてひたすら覚えていました。実は第 57 回が終わってから、記述問題はあまり解いていません。気になるところだけサッと確認する程度でした。

試験ではとにかく落ち着いて解くようにしました。模擬試験での感覚から確実に見直しする時間は取れないと思っていたので、計算や暗記物の問題は特にゆっくり丁寧に解きました。問題のストーリーを思い浮かべながら出題者が求めている解答は何かをじっくり考えました。

今までの試験で 1 番うまくいったのですが、わからない問題もあったため正直自信はありませんでした。しかし、第 58 回試験で完全合格することができました。

=====

【通っていた予備校】

・気象予報士講座クリア (10 ヶ月通学コース+実技中上級コース)

・夢☆カフェ（個別指導）

＝＝＝

◎一般知識の勉強法 ～理屈をしっかりと理解する！～

- ① 『よくわかる気象学-第2版-』で基礎を固める→過去問→『らくらく突破気象予報士かんたん合格テキスト-学科一般知識編-』でより細かく理解する→過去問
- ② ウェザーニュースのYouTube『ガチ天』を隙間時間に観る

この2点を行っていました。①は何周したかわからないくらい行い、とにかく理解を深め、定着させていました。学科に合格するためにはこの2冊の本があれば十分でした。『よくわかる気象学-第2版-』では小学生でも理解できるくらいわかりやすく噛み砕いて解説してくれるため、一般知識で特に重要な理屈の理解の大きな助けになりました。かなりおすすめです。これを單元ごとに読み、理解できたと感じたらその単元の過去問を解きました。一度に全て読み切るのではなく、單元ごとに理解する方が定着が早いと感じました。さらに『らくらく突破気象予報士かんたん合格テキスト-学科一般知識編-』を読むことで、過去問の応用問題にも柔軟に対応できるようになりました。一般知識は過去問の解き方や内容をしっかりと理解できれば合格することができます。②は勉強に疲れたとき、寝る前、移動時間などに観ていました。内容は気象予報士試験に特化したクイズで、予報センターで毎日予報業務をしている方の解説を聞くことができます。少し昔の映像なので観ている人は少ないかもしれませんが、楽しく理解することができておすすめです。

◎専門知識の勉強法 ～気象庁のホームページを漁りまくる！～

- ① 『よくわかる気象学-専門知識編-』で基礎を固める→過去問→『らくらく突破気象予報士かんたん合格テキスト-学科専門知識編-』でより細かく理解する→過去問
- ② 気象庁のホームページの知識・解説ページの『気象』の部分を暗記・理解する

この2点を行っていました。①は一般知識と同じ勉強法です。②は中島先生から教えていただいた方法です。気象庁のホームページに掲載されている内容は結構試験に出ているんです！一般の方向けに解説されているので、気象予報士の勉強をしていれば内容もかなり理解しやすいです。また、専門知識は一般知識と違って情報が更新されることが多くあるので、私のように複数年勉強していると、古い知識で覚えてしまっている可能性があります。誤った知識をつけないように、こまめに気象庁のホームページを見て勉強するようにしていました。気象予報士の使命は「人々の命や財産を守ること」であるので、防災関係（特別警報・警報・注意報・キキクルなど）は特に注目しておくべきであると思います！

◎実技の勉強法 ～問題のストーリーを掴む！～

- ① できるだけ多くの過去問を解いて内容を理解する(私は第 40 回～第 57 回をそれぞれ 6 周以上しました)
- ② 雲量、雲形、天気図記号、予報用語(1 日の時間細分、雨の強さなど)の暗記物を完璧にする
- ③ 初見の問題に慣れる&場慣れするために模擬試験をたくさん受ける

この 3 点を行っていました。過去問はただ解答を暗記するだけでは初見の問題に全く対応できませんでした。問題は問が違って、きちんと辿ってみれば繋がっていることがほとんどで、問題のストーリーを把握することが重要であると感じました。私は過去問を解き始めた頃は、出題者は何を問うているのかわからないまま解き終えていました。しかし、何度も解いているうちに、「前の問題でこれを答えさせたから、この問題はこれを書かせたいんだろうな！」と閃くことが多くなりました。また、初めのうちは過去問の解答を丸暗記することを行うと思うのですが、それは「文章の書き方を覚えるための作業」に留めておく方が良いと合格してから感じました。しかし、雲量、雲形、天気図記号、予報用語は少なくとも過去問に出てきたものは完璧に丸暗記していました。雲量などは九九のように一瞬で答える特訓もしました。(実は暗記が苦手な...覚えるの大変でした...)

合格した第 58 回試験では、記述の難しい問題は自分だけではなく、他の受験生も完璧には解けないので、答えが綺麗に一つに決まる暗記物や計算を確実に取ることを意識して挑みました。そして、私には試験を何度経験しても、緊張は付き物でした。なので少しでも場慣れするために中島先生の模擬試験を何度も受けました。中島先生の模擬試験はびっくりするくらい実際の試験と似ていて、本番と同じ緊張感を味わえる機会でした。解説も詳しく、確実に身に付いたと思います。合格を目指している方はぜひ中島先生の模擬試験で力試ししてみてください！

=====

【最後に】

合格体験記をお読みいただき、ありがとうございました。あくまでも私の勉強法ですが、少しでも皆様の参考になれば良いと思っています。合格率 5%と難関な試験ですが、試行錯誤して自分にあった勉強法を見つけることができれば合格できる試験だと思います。先生のお力を借りることや、合格した方の声を聞くことが合格の近道と感じています。近くで応援してくださった中島先生には大変感謝しております。

受験生の皆さま、癒しの時間も取りつつ、これからも頑張ってください。応援しています！